

国際シンポジウム 近代書壇の誕生 ー東アジア三地域の比較からー

書壇と称される書家たちのつながりは、それぞれの書家たちが結成・所属した種々の組織・団体を基盤とするところがあります。近代になると、書家たちは多岐にわたる組織・団体を活発に設立させますが、その動向は日本のみならず朝鮮や中国にも顕著で、地域によって独自色がうかがわれます。

このシンポジウムは、2018年に開催いたしましたシンポジウム「近代東アジアの書壇」の続弾として企画したもので、国立故宮博物院（台北市）の陳建志氏、国立中央博物館（ソウル市）の金昇翼氏の基調講演に加え、プロジェクトメンバー5名の研究発表と討議で構成いたしました。

今回は、前回のシンポジウムを踏まえつつ、近代に誕生した書壇そのものの研究に加え、それを生み出す背景にも留意しつつ、日本・朝鮮・中国の三地域における書壇形成のあり方を眺望しようと思います。

日時：2021年8月21日（土）10時～16時30分

zoomによるオンライン開催 ※発表には日本語・韓国語・中国語それぞれの通訳があります。

主催：近代東アジア書壇研究プロジェクト

（代表者 菅野智明 日本学術振興会科学研究費助成事業 課題番号 17H02291）

申込方法：8月14日（土）までに、以下のURLよりお申込みください。無料でどなたでもご参加いただけます。 <https://forms.office.com/r/xhWGAuQVfF>



プログラム：

研究発表 10時～12時

- |                         |                 |
|-------------------------|-----------------|
| ① 清末民初における書画社団の規約について   | 高橋佑太（筑波大学准教授）   |
| ② 近代日本人書家の朝鮮書芸との邂逅      | 金 貴粉（津田塾大学研究員）  |
| ③ 大阪市立美術館蔵「天発神識碑」の一考察   | 下田章平（相模女子大学准教授） |
| ④ 大字仮名表現における安東聖空と正筆会の役割 | 高橋利郎（大東文化大学教授）  |
| ⑤ 中村不折と高村光太郎に見る六朝書道     | 矢野千載（盛岡大学教授）    |

基調講演 13時～15時

- |                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| ① 曾熙と向燊（1905-1929）    | 陳建志 氏（国立故宮博物院助理研究員） |
| ② 韓国近代書画壇の形成と書画家たちの実相 | 金昇翼 氏（国立中央博物館学芸研究士） |

討議 15時15分～16時30分

司会 菅野智明（筑波大学教授）

問い合わせ先 〒305-8574 つくば市天王台 1-1-1 筑波大学芸術系 菅野智明研究室

TEL/FAX 029-853-2715

写真「瑞雲書道会新年試筆展覧会」（『書道』第1巻第3号1932年）